

日韓学術文化青少年交流事業訪韓団第2団（派遣プログラム）の記録 （対象国：韓国，テーマ：教育現場視察及び意見交換）

1. プログラム概要

日本全国から選抜された若手の小学校・中学校・高等学校の教育関係者14名が韓国を訪問し、教育現場視察、教育関係者との懇談、ホームステイ、韓国文化体験などを通して韓国への理解を深めるとともに、日本の魅力（文化・国民性等）や教育事情の発信等、日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。

また、帰国前の報告会では、本訪韓経験を活かした帰国後のアクション・プランについて発表しました。

【訪問地】

韓国ソウル特別市，華城市，城南市，平澤市，龍仁市，水原市，慶州市，釜山広域市

2. 日程

9月12日（火）金浦国際空港から入国

【学校訪問】水原大学（オリエンテーション等）

9月13日（水）

【表敬訪問】国立国際教育院，【学校訪問・懇談】松北初等学校

9月14日（木）

【学校訪問・懇談】東栢中学校

【視察】水原華城，【文化体験】弓道・華城御車体験

9月15日（金）

【学校訪問・講義】水原大学『日韓比較文化』，【学校訪問・懇談】郷一高等学校

【交流】ホームステイ対面式

9月16日（土）

終日ホームステイ

9月17日（日）

ホームステイより再集合

9月18日（月）

【視察】三星イノベーションミュージアム，

【表敬訪問】在大韓民国日本国大使館公報文化院,
【ソウル市内視察】景福宮, 【文化体験】韓服体験

9月19日(火)

【慶州市内視察】仏国寺, 石窟庵

9月20日(水)

【文化体験】陶芸作り体験
成果報告会

9月21日(木) 金海国際空港から帰国

3. プログラム記録写真



9月13日【学校訪問】松北初等学校
(京畿道平澤市)



9月14日【学校訪問】東栢中学校
(京畿道龍仁市)



9月14日【視察】水原華城
(京畿道華城市)



9月15日【講義】日・韓比較文化
(京畿道水原市)



9月15日【学校訪問】郷一高等学校
(京畿道華城市)



9月16日【交流】ホームステイ離村式
(京畿道華城市)



9月18日【表敬訪問】在大韓民国日本国大
使館公報文化院 (ソウル特別市)



9月18日【文化体験】韓服体験
(ソウル特別市)



9月20日【視察】仏国寺
(慶尚北道慶州市)



9月20日【文化体験】陶芸作り
(釜山広域市)

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 団員

ホームステイを通して韓国人の日本人に対する思いを知ることができた。ホストファミリーの「日本人は好き。」という言葉が心に残っている。歴史観や外交問題の捉え方がシビアだとは感じたが、日本人の人柄と文化の良さを区別している点においては、安心した。高等学校の学生との交流でも同じことを感じた。

◆ 日本 団員

小・中・高の訪問先の学生、教職員が笑顔で迎えてくれ、歓迎会などを準備し、積極的に交流してくれたことがとても嬉しく感動の連続だった。日本と韓国で教育のシステムに違いはあるが、学生に対する根本的な思いは変わりがない。教育現場の生活や課題についても共通するところが多くあり、共感でき、国を超えて同志だと思った。

◆ 日本 団員

学校訪問の交流会で、日本の文化や学校についてプレゼンをすると、大変興味深く聞いてくれた。その後の質疑応答の時間でも積極的な質問が飛び交い、流暢な日本語で質問する学生も多く、日本語能力の高さと日本に対する関心の高さを感じた。

◆ 日本 団員

訪問先の学校とスカイプを通じて学生同士の交流をすることになったので、今後はスポーツ交流などにも発展させていきたい。また交流が進んでいけば、姉妹校として互いに訪問し、留学先としても考えていきたい。

5. 受入れ側の感想

◆ 受入れ事務局

初めての受入れで、数十回企画書を書き直すほど準備は大変だったが、団員と10日間を共に過ごすことにより、韓国について理解を深めていく様子が分かり、やりがいを感じた。成果報告会では、ホームステイや学校訪問以外の日程内容にも満足していただけたことが分かり、安堵した。ぜひ韓国や日本で団員と再会したい。そして来年も受け入れたいと思う。

◆ 訪問学校（学生）

普段なかなか日本人と触れ合う機会がないので、とても良い経験になった。団員の方が親しみを持って韓国語で話しかけてくださったことや、自分の日本語が通じたことが嬉しかった。交流会の準備はプレゼンテーション資料の作成や、出し物の練習が大変だったが、喜んでくださったのでまたぜひ訪問してほしい。質疑応答では日本の学校やポップカルチャーについて色々話を聞いたのが楽しく、新しい発見があった。


◆ ホームステイホストファミリー

日本語を熱心に勉強している中学生の子供が、通訳の役割をして十分に意思疎通できることが分かって嬉しい。団員の方が日本の文化や教育現場について写真やスマホを使って説明してくれたので、お互いの文化について語り合い、お互いの国を知る良い機会になった。2泊3日がとても短く感じるほど充実した時間だった。

6. 参加者の対外発信

	
<p>在大韓民国日本国大使館公報文化院を訪問しました。この組織は、日韓交流を促進させる役割を担い、日本文化の対外発信、日韓交流を深めるイベントの企画など日韓の橋渡しとなるような活動をしています。職員との質疑応答を通して、現在の日韓関係や韓国の文化について理解を深めることができました。</p>	<p>訪問した学校で、日本の伝統文化と学校教育についてパワーポイントを使って説明しました。その後の質疑応答の時間には、災害訓練、部活動、食べ物、スポーツ、アイドル、アニメなど様々な質問に答え、聴講学生との活発な交流の時間を持ちました。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>10 日間の日程を振り返ると共に、各種視察やホームステイを通じての成果及び帰国後のアクションプランについて発表した。アクションプランの具体的な内容としては、個人のブログや SNS を通して活発な発信を行う、今回の訪韓経験をパワーポイントを活用し、教育関係者と共有する、ホームステイ先の家族に引き続き連絡を取り、日本の情報を伝え、周りに発信してもらう、などの発表が行われた。</p>	